



私たちの未来 こんなまちに 住んでいたい

皆さんが描く当別の未来
はどんな未来でしょうか。

町が進める行財政改革の

プランづくりでワーク
ショップやグループインタ
ビューなどにたくさんの方
民の方が参加し、これら
の当別について真剣な話が
交わされました。



第3回 ワークショップ

ワークショップ最終
回を11月10日に開催し
ました。
前回に引き続きグ
ループごとに最終意見
の取りまとめを行い締
めくくりました。その
概要をお知らせします。

地域づくりと人づくりグループ

「町民活動支援室」の設置

行政の考え方を一新し、コーディネート
の立場の部署が必要であり、
具体的に必要な町民の提案に
対して結果が出る担当部署を設
置し、行政と町民が一体となっ
ていくことでネットワークの広がりや
トナリシップにもつながる。また、
専門的知識も必要となるので民間
人の登用も検討すべきである。

住民参画とボランティアグループ

ボランティアネットワークセンター
(仮称)の設置

ボランティアを必要とする人への
派遣やボランティアの登録などを行
い、役場と町民の間を取り持つよう
な組織として、人材の育成や発掘に
も取り組んでいく。
また、多くの町民がボランティア
に対する認識を持つことで、住民参
画への足がかりとなる。

民間と行政の役割分担グループ

行政のスリム化とこれに伴う受け皿
作り「官民共同運営と歳出削減」
行政サービスの枠組みを変更し最
低限のサービスとし、高度技術を要
するサービスは道に委託。NPOに
出来る事業は、NPO委託とする。
未利用の土地や施設を法人に譲り
有効利用。自立経営の出来る事業
は、第3セクターとし、将来は法人
化。さらに町営の施設は、民間売却
し官民共同で運営する。

地域の経済発展と産業・法人育成

企業育成や誘致のための優遇措置
を検討し、産業法人育成のため一次
産業PRの活性を併せ、生産者と消
費者の接点づくり。また広報誌作成
の民間委託、情報ネットワークの強
化が必要である。

快適で住みやすい町づくりグループ

利用しやすい交通手段

循環バスの運行・福祉バス利用範
囲の拡大・除排雪体制などを検討。
どの課題でも一定程度の利用者負担
はすべきである。

町の活性化

ゴミ処理・学生の定住などを議論。
ゴミ処理は、住みやすい町の重要な
条件であると位置づけ、地域ぐるみ
の取り組みが大切。また、「学生の
定住」を進めるためには、絶対的な
方策は無くとも、様々な角度からの
取り組みが必要である。

グループ インタビュー



11月5日と7日の2日間、公募に
よりお集まりいただいた町民25名
が、年代ごとに5つのグループに別
れてグループインタビューを行いま
した。

北海道医療大学の横井寿之先生の
進行で、参加者から、これからの当
別町に対する様々な意見やアイデア
が提案されました。

ワークショップとグループインタ
ビューで出された多くの貴重な意見
を集約し、再構築プランに盛り込む
べきものなどを判断しながら、プラ
ン策定を進めると共に、取りまとめ
の詳細は町ホームページなどでお知
らせします。

グループインタビューの内容

町長の日記

16年11月16日(火)

今年から文化祭の発表会場が総合体育館と白樺コミセンに統一されスペースも広くなり11月5日から7日迄催されたから入場者は例年よりそうとう多かった。

子供のピアノ発表会は3日に西当別コミセンで催されたが、いずれの会場でも文化団体の方々が一生懸命準備されていたのには感心した。お陰で3,000人近くの方が展示会や発表会を楽しめたのだから、文化協会の方々には頭が下がる。

文化祭の幕開けの混声合唱団が又よかった。小さな街では混声合唱は難しいのだが、30人ほどの熟年男女が長いドレスと蝶ネクタイでステージに立って歌った姿はさながら一流コンサートホールにいるように感じ美しかった。日頃見慣れた人までが、まるで別人のように素適に感じた。

本通りの「あえ～る」で一年中、陶芸、盆栽、絵画、刺しゅう、押花展等いろいろな個人展示会が開かれているが、今回町内の和菓子屋さんが催している写真展は「当別の四季」と云うテーマで当別町内の地域毎の風景を撮ってまるで、町内ごとに美しさを競わしているようで面白い。

この町は文化団体が60以上もあるが、長い歴史と伝統のある団体もあるし個人でもすばらしい文化的な活動家がいるのを改めて認識した。

農業をアグリ・カルチャーだと云って市場価値のない傷人参でジャムを造ってる人達も元気がいい文化活動だと思ふ。

当別の石碑をたどって文庫を発刊した老人パワーもたいした文化だと尊敬する。

文化会館が無くても頑張ってくれている人がこんなにいる町が道内にあるだろうか。

台風にもめげず今年も役場のホールに飾ってくれた菊に毎朝目で挨拶して町長室に向う。

当別町長衆亭後考

各グループの特徴

主な意見

高校生・大学生グループ (参加者 6名)

当別町で生まれ育った高校生と当別町に転入してきた大学生という構成で、行政との関わりが日常的には少なく、町への興味は、「住環境」や「違う世代間との交流」が主なものでした。	<ul style="list-style-type: none"> ◆若者向けの店、新しい店が少ない。 ◆学生を快く受け入れ学生からの行動がしやすい町で、町民も連携してくれる。 ◆街路灯が少なく、暗い。 ◆ごみに関して、学生や若い人の意識が低い。
--	--

若者グループ (参加者 4名)

当別町内で働いている20代の若者で構成。高校生・大学生グループと同様、行政との関わりが日常的には少なく、町への興味は、「買い物」や「集まれる場所」などが主なものでした。	<ul style="list-style-type: none"> ◆若い人が集まれる場所、楽しめる場所が少ない。 ◆伊達武士のまち、ふくろう、花、道民の森などの資源をもっとアピールすべき。 ◆品ぞろえは良くないが、町内で買えるものは町内で買うという意識が必要。
--	---

育児・教育期の女性グループ (参加者 5名)

子育て時期の女性グループであり話題の中心は、「子どもの環境」とそれに伴う「親の環境について」。	<ul style="list-style-type: none"> ◆公民館図書室は、入りづらく場所も不便。 ◆公共施設が役場付近に集中配置しているととても便利。 ◆グループインタビューのように、町と身近な話し合いが出来ると良いと思う。
行政に対しては、効果的な「話し合いの場」の積極的な活用を求めています。	

社会人グループ (参加者 5名)

基本的に子育ての時期が終わり、ボランティアなど地域活動に携わっている40代・50代のグループ。	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政は閉鎖的で説明不足、一方、町民も行政の情報を知る努力が必要。 ◆JR沿線の人たちを取り込める魅力的なまちづくりが必要。 ◆駅前など人目につく場所に重点的に花を植えた方が効果的。
「町民と行政との情報が共有されていない」という点に、強い問題意識を感じていました。	

高齢者グループ (参加者 5名)

今回のグループの中では、最も地域に密着したグループで、話題の中心は、「地域づくりとコミュニケーション」。	<ul style="list-style-type: none"> ◆当別の除雪は、札幌と比べると恵まれている。 ◆一人暮らしになったら不安だが、近所同士が助け合う地域づくりが必要。 ◆空き店舗対策について、多くの知恵を出し合えば良い考えも生まれる。
行政に対しては、過度に依存することなく「協働」が必要との認識でした。	